

職員による自己評価

A環境面

- ・バリアフリーの配慮は足りないが
限りあるスペースを最大限に利用している。

B児童への支援内容

- ・一年間職員が固定し子供達への支援が落ち
着いて出来た。
- ・計画をもとに支援開始前には、支援の内容や
確認を行っている。支援終了後、振り返りが
出来る日と出来ない時がある。
- ・職員連絡ノートに記載し情報共有は行う。

C関係機関との連携

- ・学校との情報共有・送迎・行事等の連携は出
来ている。
- ・発達支援センター・児童発達センターなどの
専門機関との連携、助言、研修に昨年職員が
固定された為、参加できる事もあった。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・保護者へは連絡帳や送迎時に一日の様子を
伝えている。

保護者による評価

A環境面

- ・入口が狭い気がする。
- ・階段が少し心配である。
- ・子供の成長に伴い、少し手狭な感じである。
(昨年と同様)

- ・目の届く丁度よいスペースであるという
ご意見もありました。

B児童への支援内容

- ・プログラムは飽きないよう工夫されている。
- ・曜日によって差があると感じる。
- ・クリスマス会でコーラスのお友達と接する機
会があった。否定はしないが障がいのない子
ども達と積極的に交流してほしいとは思わな
い。

- ・外出先やイベントの時に色々な方と会う機会
がある。

C事業所からの情報発信

- ・毎月発行されるニュースレターで子ども達の
活動の様子がよくわかる。父母会はあると大
変になり必要ない。

D非常対応

- ・年 2 回の避難訓練を行っている。

事業所内での分析

【共通点】

スペースの問題、もう一部屋欲しいがマンションの部屋を使っている為、これ以上のスペースを作る事が
難しい。

プログラムに関しては子ども達が飽きないように工夫している点や、ニュースレターで情報発信している

【相違点】

曜日によって差があるという保護者もいるが、全ての子ども達に同じ経験の場を持って貰えるようには
している。また同じことの繰り返しという意見もあったが、全てにおいて工夫し楽しく取り組めるように
考えている。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・アニマートのテーマである”元気でいきいきとすごせるよう”一日の流れの中に「静・動」の活動を組み込んでいる。
- ・季節を感じられる行事や好き嫌いを減らす「食」への工夫に取り組んでいる。
- ・リトミック・ダンスの先生を招いて活動している。
- ・地域資源を活用をしている
(港北図書館・コミュニティーハウス・菊名神社・ログハウス・ラポール等)

事業所の改善点

- ・マンションの一室を改装して使っている。限りあるスペースを整理整頓し工夫して使う。
- ・クリスマス会に地域の方を招く。
- ・障がいのない子ども達を事業所に招いて交流の機会を作る。
- ・職員の研修の充実と学校や他の機関との担当者会議に出席し連絡を密にしていく。

事業所の改善への取り組み

- ・昨年の6月に保護者会を開催し参加者は12名だった、多くの方が参加してもらえるように内容の充実をはかりたい。
- ・昨年のクリスマス会にて障がいのない子ども達と一緒に歌を唄う機会を持った、今後事業所内にて年何回か交流を持てるように考えている。
- ・学校との連絡会にて要望が出た送迎車にドライブレコーダーの設置を行った。
- ・昨年は職員の入れ替わりがなく支援が安定した為、夏のお泊り会を開催できた。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

昨年は初めての保護者会を開けたことや一年を通じ職員の入れ替わりがなく研修等を行うことができました。さらに職員研修の機会を増やし、地域関係機関との連携を図り、地域と共に生きていくという事を保護者の方たちと共に考えていきたいと思いました。

2019年3月1日

事業所名 児童デイサービス・アニマート菊名

担当者 管理者 山崎 珠美